

早稲田大学大学院日本語教育研究科


2019年2月


博士学位申請論文審査報告書


論文題目：「新しい能力」の教育としての日本語教育における日本語  
教師研修

—現状の分析と実践を通しての研修モデルの構築—

申請者氏名：松本 剛次

主査 川上 郁雄 署名 川上 郁雄   
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

副査 池上 摩希子 署名 池上 摩希子   
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

副査 宮崎 里司 署名 宮崎 里司   
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

## <本論文の概要>

本研究は、21世紀型の教育で必要とされる「新しい能力」の教育としての日本語教育を標榜しつつ、その教育のための日本語教師研修のモデルを提示し、日本語教育における教師研修の新たな捉え方と実践方法を探究した研究である。

本論文は、第1章の「問題の所在」で、申請者にいう「新しい能力」をめぐる日本語教育における現状とその背景にある考え方を検証し、かつ、申請者の行った教師研修を振り返りつつ「新しい能力」の教育としての日本語教師研修のモデルを提示するという道筋を示す。その上で、本研究の結論と今後の見通しを述べた。

続く第2章の「新しい能力」の教育と日本語教育」では、新しい時代の要請に応える能力としての「新しい能力」の教育と言語教育の間に密接なつながりがあることを確認し、日本語教育における課題があることを検証する。その上で、複言語・複文化能力の教育としての言語教育、あるいは異文化間言語教育としての言語教育の実践が必要であるという立場から、日本語教育の現状では異文化間言語教育の安易な公式化など、実践が不十分であることを指摘する。

第3章の「新しい能力」、その理論と考え方」は、「新しい能力」に関する理論について考察した章である。H.ジューの批判的教育学、J.デューイのプラグマティズム、K.マルクスの弁証法的唯物論、Y.エンゲストロームの活動理論、「拡張による学習」などの諸説の検証を踏まえて、現状を変革して行く方法論を検討する。

以上の考察と検証を踏まえて、続く第4章の「新しい能力」と日本語教師研修」では、新たな日本語教師研修のあり方について検討する。「変革的知識人」(H.ジュー)、「反省的実践家」(D.ショーン)、「ダブルループ学習・トリプルループ学習」(C.アージリスら)、「ケースメソッド型の教師研修実践」(佐藤)などの教師研修のあり方を検討し、教師自身が問題の原因や解決方法を探し出す方向性を理論的に提示する。その上で、これまでの教師研修に見られるアクションリサーチ (AR) を批判し、日本語教師自身が「他者との関係性を理解と違う形で構築すること」が重要であり、必要であるという独自の立場を構築する。

第5章の「実践の再検討」は、申請者がこれまで海外で行なってきた主な4つの日本語教師研修の実践例を分析していく。オーストラリア、インドネシア、フィリピンで実施された日本語教師研修の概要が示され、成果が得られたと考えられる要因や失敗したと考えられる要因、あるいは課題等について検証した。これらの研修は実施前

に理論化された考えがあったわけではないが、その時々のおねらいや考えによって実施された研修から、研修のモデル化のための要素が析出された。

第6章は、前章までの理論化と実践の分析を踏まえて、教師研修のモデル化を検討した章である。ここでのモデル化は、「経験的モデル」化である。最終的には、批判的思考を視覚化、言語化することにより、階層内あるいは階層を超えた「ダブルループ学習・トリプルループ学習」という「動き」が出てくるような仕掛けのある研修モデルが示される。そして、このモデルを参照する研修参加者が、このモデルを理解し、意識的に動き出すことが重要であると指摘される。

その上で続く第7章では、前章で提示された研修モデルの検証を行う。まず、言語及び言語能力を「複合的で複層的な能力」として捉えること、さらに言語、言語能力、他者と自己までも自明のものとして扱わないことを提示する。つまり、「新しい能力」を目指すことは、すべてを作り直していくことが必要で、本研究ではそのためのモデルを提示したと主張する。

最後の第8章の「結論と今後の課題」では、本論文の基本的考えである、日本語教育は思考の教育であり、思考の教育とは「道具としての言語そのものをその場に参加するすべての人によって協働的に構築する生産、想像の教育」という考えが提示される。その上で、本研究の主張である教員研修のモデルは、日本語教師が「構築＝創造のプロセスを経験し、経験を通して学ぶためのモデル」であることが強調された。

#### <本論文の評価>

本研究の評価すべき点は主に以下の3点である。

第1は、近年日本語教育を含めた言語教育において注目されている、申請者のいう「新しい能力」をめぐる日本語教育、さらに日本語教師研修のあり方を理論的に検討した点である。多様な社会状況に対応する力は今や、どの教育領域においても、喫緊の課題となっている。申請者はその力の育成に言語教育も関わるという意識から、教師研修の重要なテーマとして設定し、そのテーマを実現すべく教師研修のあり方に光を当てたことは高く評価できる。

第2は、その「新しい能力」をめぐり、先行する国内外の議論を整理し、理論的考察を経て、新たな教師研修モデルを理論的に提示した点である。特に、教師研修という場において、新たな考えにたどり着くためのモデルを示した点は高く評価できる。

第3は、この教師研修モデルを現場に下ろしていくことを想定し、海外で自らが関

わった教師研修の実践を、自らが理論化した教師研修モデルを元に分析するという実践研究を行った点である。その中で、「思考の道具」となる言語を作り直していくことが重要であると指摘し、それがより良い実践につながると主張している点は、他に類のない研究として高く評価できよう。

ただし、本論文には、以下のような課題もある。

- 1) 「モデル」を援用した先の目標として求められる教師像があり、それは「新しい能力」の育成を目指した日本語教育が実践できる教師である、とされている。このこと自体に異論はないが、研修を受ける前の教師については、それがどのような教師であってもよいのか、条件はあるのか（あるいはないのか）が必ずしも明確には述べられていない。教師の多様性についての議論もあるなか、一律の「新しい能力」に対する認識が不足している教師」といった存在を想定し、研修モデルを通した経験をもって内省と意識化が進められる、という単線的な構造ではないのではないかという疑問も残る。この点に関する記述がより丁寧にされている必要がある。
- 2) 検討された4つの教師研修の事例の全てが海外の日本語教師研修の実践の場であることが、本研究で結論として述べられていることをどのように規定しているのかあるいはしていないのかについて、あるいは規定していないということであればその点こそ、より明確に記述してもよかつたのではないか。
- 3) 「新しい能力」という新たなコンセプトについては、申請者の理論構築の工夫が見られるものの、異なる日本語教育の発展を遂げてきた3カ国における実践の試みについて、その汎用性を高めるためにも、効果を検証する論究が求められる。
- 4) 第6章で示した図4のモデル理論について、さらなる検討や研究発信が課題と指摘されているが、第8章の「結論と今後の課題」では、モデルの精緻化を図るために臨床的検証が求められるとする、より重厚な記述がほしい。

#### <本論文の判定>

本博士学位申請論文は、上記の課題もあるが、日本語教育学の博士学位論文として認めることができる。

なお、本論文にあった誤記は、添付の「日本語教育研究科 博士学位申請論文修正リスト」のとおり修正されたことを確認した。

博士学位申請論文 題目	「新しい能力」の教育としての日本語教育における 日本語教師研修 —現状の分析と実践を通しての研修モデルの構築—	
申請者	松本 剛次	
修正リスト提出日	2019年 3月 8日	
ページ番号・行	修正前	修正後
p.39、1行目	活動と	活動を
p.58、下から6 行目	フレイル	フレイレ
p.59、14行目	批判理論	批判的理論
p.65、11行目	用いて	用いた
p.69、8行目	ならず	ならず
p.85、6行目	理論的する	理論とする
p.101、脚注58	姫野訳	姫田訳
p.120、脚注71	実際 ILTL では ILTL はいわゆる	実際、ILTL では、ILTL は、い わゆる、
p.121、脚注72	「ILTL」といは	「ILTL」とは
p.123、14行目	「～変えましたかそうである 場合～」	「～変えましたか。そうで ある場合～」
p.149脚注82	このような考えに至る出発点 として松本（2005）がある	このような考えに至る出発点と して、松本（2005）がある。
p.151、下から 10行目	改革案を	改革案が
p.158 図21	登里、小原、平岩、斎藤、栗 原、2007	登里、小原、平岩、斎藤、栗原 （2007）
p.192、3行目	「活動理論」	「活動理論」
p.221、脚注 123	借りて言えば	借りて言えば
p.243、8行目	社会を作る	社会をつくる
p.243、9行目	社会を作る	社会をつくる

p. 244、3 行目	姫野麻利子	姫田麻利子
-------------	-------	-------

日本語教育研究科 博士学位申請論文修正リスト